

NPO法人びーのびーの2013年度事業報告書

2013年4月1日～2014年3月31日

第1 1年を振り返って

13年目のびーのびーのとして、おやこの広場びーのびーのでは代表の交替という大きな節目の1年だった。前代表から1年間の伴走支援を受けながら、現代表に無事引き継がれ新体制移行への万全な足がかりと付けられた1年であった。地域子育て支援拠点事業であるどろっぴでは、市全域での横断的なネットワーク「よこはま拠点ネットワーク（通称：拠点ネット）」も秋に立ち上がり、子ども・子育て会議、平成27年春からの制度導入に向けての準備が進んだ。びーのびーのが「新しい協働を考える会」に参画し、3年以上に渡って提案してきた「協働契約」に全18区が締結をしていくことにもなった。

2、3歳児の預かり保育まんまーるは、順調に関わるスタッフの学び合いを元に一時預かり枠も創り、大倉山地区に根ざした地域での預かりによる実践を高めることができた。企画室も港北区社会福祉協議会からの長年の委託事業である「ココマップ」作成事業もウェブと紙面編集と並走させながら、自主財源獲得のための広告収入への取組みをスタートさせ、法人としての新たな広報ツールの一体化を図った。都筑区で実績を積んだ幼稚園協会との協働についてはいよいよ港北区幼稚園協会との繋がりづくりの布石を打つことができた。

これら全てを支えるスタッフの労働環境を改善するための「労務改善プロジェクト」や新制度導入に先駆けて、法人としてのまんまーるの今後を主軸とした「中期計画プロジェクト」の2種を担当理事制によって設定。事務局と共に専心しながら一定の方向性を生み出すことができた。

地域との関係も大倉山地区では地元「宮前・まちづくり運営協議会」に参画し、町内会関係や学童、他保育所、商業施設などとの連携を深め、避難訓練を合同で実施する、イベントを企画、参加するなどその関係を深めていくことができた。このように、それぞれの部門が着実に次の1歩を踏み出すための足掛かりが付けられた1年であった。

第2 事業内容

(1) 子育て支援施設の運営

①「おやこの広場びーのびーの（菊名ひろば）」

（横浜市こども青少年局委託事業 親と子のつどいの広場事業）

1) 基本データ

① 対象	主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者
② 実施場所	横浜市港北区篠原北 1-2-18
③ 開催日時	月曜～金曜 9時30分～16時 第3水曜 12時～16時
④ 平均開設時間	6.2時間
⑤ 年間利用者総数	8,008人
⑥ 1日あたりの平均利用者数	34.2人

2) 事業概要

- ①子育て親子の交流、集いの場の提供
- ②子育てに関する相談、援助の実施
- ③地域子育て関連情報の提供
- ④子育て及び子育て支援に関する講習の実施
- ⑤一時預かりの実施

3) 1年間の報告

- ①ひろばは「もうひとつの家」としてみんなが一緒に育ちあい、子どもたちを見合い、子どもの日常を大切にしたい場づくりをおこなった。
- ②スタッフは利用する親子とのコミュニケーションを大切にし、必要な支援をすることで子どもたちがありのまま育っていけるようにサポートを心がけた。
- ③地域でおこなっているサロンやプログラムに積極的に向いたり地域の子育て関係者の方にひろばに来ていただき地域のことを学ぶ機会をつくりつながりを築いた。
- ④子育て支援に興味があるインターン生の受け入れをおこない日常のひろばで活動しながら子育てや地域の活動に興味を持ってもらうことで次世代の子育て支援者育成につながるように努めた。
- ⑤ひろば一時預かりが必要とされる中、利用ができない会員の対応として他の預かり機関を案内し、連携を図り個々のケースに対応をしていった。

② 港北区地域子育て支援拠点どろっぴ

(港北区地域子育て支援拠点委託事業)

1) 基本データ

① 対象	主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者
② 実施場所	横浜市港北区大倉山3-57-3
③ 開催日時	火曜～土曜（祝日と年末年始及び特別休館日を除く）
④ 平均開設時間	9時30分～16時
⑤ 年間利用者総数	31,653人（子ども16,915人 保護者14,738人）
⑥ 1日あたりの平均利用者数	主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者 129人（子ども69人 保護者60人）

2) 事業概要

横浜市次世代育成支援行動計画「かがやけ横浜子どもプラン」における1区に1つの支援拠点モデル事業として2006年3月に開設。6つの要綱（①親子の居場所、②情報収集・提供、③ネットワーク、④子育て相談、⑤人材育成、⑥子育てサポートシステム）に総合的に取り組むための拠点として運営している。

3) 1年間の報告

①親子の居場所

多様な親子のニーズが増える中、同じニーズ、共通課題を持つ親同士のつながりを作るためのプログラムを構築し、親同士が支え合える場としてのコーディネートを実施。利用者が得意分野を活かし、居場所の環境作りから参画できる場所を提供し、共に築く場であることを投げ掛けてきた。昨年度は、ひろばでのより密な交流を図るためスタッフトークセッションの実施。日常の気軽な交流、居場所の充実を図るためにひろばサポーター制度も導入した。

②情報収集・提供

地域訪問では拠点もつ情報を持参し、来所が困難な方も含めて必要な情報が入手できるように配慮。イベントではスタッフが出向くと同時にパネル展示も行い、拠点の周知に努めた。ココメール・子育て支援者メーリングリストの周知も行い、区内での子育て支援に関わる登録者数を拡大した。

③ネットワーク

港北区拠点ネットワークぎゅっとが結成され、区内の地域子育て支援を俯瞰して実践者同志が連携しながら団体間の学び合いを始めとする情報交換や子育て環境育成が共にできる基盤ができた。次世代向けの研修も実施した。子連れお出かけマップも着手していなかったエリアや改定する地域への働きかけ協力をした。

④子育て相談

状況に応じて個別相談につなぎ、その後のフォローについては、相談スタッフとの連携の中で進めている。乳児を持つ家庭へのプログラム、被災者の方のためのサロンも継続実施した。8月には、臨床心理学会に参加。

⑤人材育成

地域振興課と連携し、孫育て講座を実施。講座後に、どろっぴ利用の親子やボランティアとの交流を図る梅散歩企画も実施した。たかたんのお家、下田の家、ツチノコネット、常設ひろば開設に向けて動いていた団体への支援も継続実施。サークル活動紹介冊子、障害児自主訓練会・グループのちらし発行もし、担い手や関係機関との連携を図った。

⑥子育てサポートシステム

25年度末の港北区会員数は1469名。全市内の約15%を港北区が占めた。月1回の入会説明会は毎月前月時点で定員に達し、1月～3月の繁忙期は臨時日を設け月2回入会説明会を行った。その

他緊急時では個別説明で対応した。出張説明会は、地域ケアプラザや地区センター、つどいのひろばなどで行い、合計 8 回実施。会員相互のコミュニケーションは交流会を年 2 回実施。通信は 3 回発行した。子育てサポートシステムの周知のために、校長会、民児協定例会に出席したり、説明会開催区域の小中学校の家庭数にチラシ配布をした。コーディネートでは配慮要する会員にはひろばのスタッフと連携を取り対応に努め、必要に応じて関係機関に繋いでいった。

(2) 子育て支援に関する事業

① 預かり保育「まんまーる」

1) 基本データ

① 対象	おおむね 2～3 歳（各曜日：8 名、一時預かり：各日 2 名）
② 実施場所	たんぼぼ保育園隣接（港北区大倉山 5-40-15）
③ 開催日時	毎週月曜、火曜、木曜、金曜 9：30～13：00
④ 平均開設時間	9：00～15：00
⑤ 利用者数（年間利用者総数）	グループ保育：26 人 一時預かり：月平均 10 人

2) 事業概要

毎週同じメンバー・スタッフでのグループ保育。同年齢の子ども同士が兄弟のような関係性を育み、近隣の豊かな環境を活用しながら、自然を感じることで遊べる遊びを展開。大倉山に場所を移したことで、より多くの遊び場の選択肢が広がった。保護者支援の視点も大切に捉えて保護者同士が支え合えるようサポートしつつ、びーのの事業として菊名ひろば・どろっぶと情報を共有することを大切にしながら、親子と向き合ってきた。

3) 1 年間の報告

菊名から大倉山に場所を移し、曜日コースも前期は週 3 日（火・木・金）・後期は週 4 日（月追加）と拡大。スタッフはほとんどが新しいメンバーという状況の中、手探りながらも一歩ずつ確実に、新たな預かり保育の場『まんまーる』を作り上げてきた一年だった。隣接するたんぼぼ保育園園長でもある白瀧理事の助言や、たんぼぼ保育園との交流保育によりスタッフ自身も学びながら、びーのびーのとして行ふべき預かり保育の形が見えてきた。後期より一時預かりをはじめ、そのニーズを確信し、1 月からは年齢対象を 1 歳児～に引き下げた。グループ保育・一時預かり共に、利用した保護者の声から必要性の大きさを感じ、スタッフとしても大いにやりがいを感じている。

(3) 子育てに関する地域の情報発信

① 出版・制作・企画事業

1) びーのびーの幼稚園・保育園ガイド」の発行事業（年 1 回）

2014 年度入園版発行（5 月 24 日）。2500 部／210 ページ／830 円 掲載園：港北区全域、鶴見区・神奈川区・都筑区・緑区・川崎市の一部の幼稚園・保育園（全 153 園）
園選びの基本に立ち返ってわかりやすい表示に改訂。当事者の保護者の意見をきく会を開き、より読者目線の編集を心がけた。

2) 制作

パンフレット、HP、チラシ、名刺など作成。イベント担当（たんぼぼ保育園、横浜市幼稚園協会都筑支部、横浜市幼稚園協会、内閣府子ども・子育て支援新制度勉強会、NPO 法人アクションポート横浜）

3) 書籍販売

総計 11 冊販売

4) びーのびーの通信

年間 10 回発行。編集会議 10 回、ページ担当 4 名、校正担当 12 名。事業内容などの変化の他、少ないがカーボン山の特集など地域の情報を取材して、紙面に載せることができた。また、インターン企画に関する原稿の校正を通して、「伝える・伝わる」ということを指導した。経費の観点では、郵送分の中からも、持っていける人に声をかけるなど通信費削減を目指した。

② インターネット事業

- 1) 港北区子育て応援マップココマップ（ウェブサイトの編集・制作・運営）
港北区社会福祉協議会委託事業／0歳～6歳までの子どもの子育て情報に特化した子育て応援サイト。イベントなど地域の情報を提供。登録編集委員：32名、編集会議／月1回。更新／トップ24回、イベント・クチコミ情報48回、特集ページ、季節情報など6回。
紙版改定拡大編集会議1回、サイト会議時に紙版改定に向け会議開催。
- 2) トレッサ横浜HP内「とれおんパーク」ブログ記事制作 トレッサ横浜委託事業
掲載内容事前打合せ（月1回トレッサ横浜）。ブログ以外の連携：イベントの協力、プロモーションビデオ撮影協力など。記事：計159本。

③ 事務請負・コンサルティング事業

- 1) 子育てタクシー
サンタクシー株式会社による「子育てタクシーサービス」と提携。連絡会開催、各種研修などの連携、意見交換、イベント・朝礼への参加。子育てタクシーかわら版編集。
- 2) 子どもと保育総合研究所事務局
子どもと保育総合研究所の事務局としての機能（会員管理、各種事務手続き、ブログ管理、セミナー開催のお手伝いなど）。夏季全国大会（8月17日、18日）、冬季セミナー（1月11日、12日）、ニュースレター2回発行、研究報告書1冊発行。

(4) 子育てに関するセミナー・イベント・調査等の企画実施

① 菊名WARA・びー実行委員会

8月8日、「港北区地域のチカラ応援事業」の一つとして行われた「打ち水大作戦」に参加、地域の井戸水を活用して、子どもたちと打ち水を行った。

② 絵本の会

菊名ひろばでの隔月のおはなし会（ちょっと企画をプラス）絵本の入れ替え、びーのびーの通信の中での絵本紹介を執筆。また港北図書館や菊名地区センターなど絵本を通じて地域と連携を図った。

③ひろば人事業

6組7人の参加があった。びーのびーのが運営する2か所の施設の見学、説明だけでなく、実際の地域子育て支援活動の実務体験の場を提供した。

(5) 上記の事業を行うために必要な一切の活動

①インターン制度

昨年に引き続きボラリーグ★こうほく事業を中心に、イベント開催、学生ボランティア説明会開催と受入れフォローの活動をした。NPO法人アクションポート横浜から長期インターン1名、短期インターン3名を受け入れた。インターン生たちは日常のひろばの中での親子との関わりを大切にしながら、季節のイベントの企画を行った。

②法人事務局

- 1) 理事会発動のプロジェクト2種（「労務改善プロジェクト」「中期計画プロジェクト」）の推進とその支援。
- 2) 運営連絡会、会計チェック会議の月次運営と進捗管理、年2回の（拡大）事務局会議の開催と運営、年3回の全体会の開催と開催後フォロー。
- 3) 学生インターン会議の運営と年間計画の作成。
- 4) まんまーる保育事業の申込み受付や事務局フォロー。
- 5) 会員管理の整備。
- 6) HP等の改訂。
- 7) びーの素（法人応援会員）の新設。
- 8) ひろば人事業や対外的視察見学対応。
- 9) 公認会計士および社会保険労務士との事務遂行業務。